

## 東京大学の教養教育 文部科学省のCOLに採択 山本 泰

東京大学の教養教育が、文部科学省の平成15年度のCOLに採択されました。COLは新しい言葉です。COEは知っている人も多くいると思いますので、まずこちらから説明します。

「21世紀COEプログラム」とは、文部科学省が平成14年度から実施している補助事業で、正式には、「研究拠点形成費補助金」と言います。「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点(Center of Excellence)を学問分野毎に形成」するために、文部科学省が重点的な支援を行う(特別に予算を配分する)もので、大学院総合文化研究科では、平成14年度と15年度に、計3つの拠点が採択されています。

さて、COL(Center of Learning)は、その教育版と言えるものです。教育COEとも言われますが、正式名称は、「特色ある大学教育支援プログラム」で、今年度から始まりました。その目的は、国公私立の「各大学、短期大学が実施している教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたもの、特に新規性は見られなくても、真摯な教育努力を継続的に積み重ねて着実に成果を挙げているもの等を選定し、これを公共財として蓄積していくことを通じて、今後の高等教育全体の改善に活用すること」にあるとされています。

このプログラムの公募が、この7月に行われ、全国の大学、短期大学から664件の応募があり、大学基準協会の審査を経て、9月に計80件の採択が決定しました。東京大学では、全学の学部前期課程生(1,2年生)を対象に駒場で行われている教養教育の取組の特色と実績を取りあげて応募し、採択されました。取組の名称は、「教養教育と大学院先端研究との創造的連携の促進」です。各大学1件しか申請ができないという条件の下で、本学からの申請に教養教育を取りあげたのは、いかに東京大学が教養教育を重視しているかの現れです。本学の申請が採択されたのは、21世紀の学部教育の基礎を4年を通したリベラル・アーツ教育におき、世界的なリーダーを養成するという一貫した教育理念の独自性と、その理念にもとづいて、これまで全国の教養教育の発展をリードしてきた東京大学の豊富な実践・実績が、特に他の大学の参考になる事例であると高く評価されたためです。[左の表\(ここをクリックして下さい\)](#)は、大学基準協会のホームページ<http://www.juaa.or.jp/>に掲載されている東京大学の取組の概要と採択理由です。



図 1 : 教養教育開発の戦略

すが、図2にあるように、学問へのより深い動機づけと分野横断的な視野をどのように与えていくかというテーマが中心になります。今が大学教育の転機であることが様々に指摘されている中、大学教育の根幹をなす教養教育の未来像を駒場の地からどう発信していくか、東京大学の大胆な挑戦に、学生諸君も是非注目していただきたい。

大学の教育は「先生」が行うものではなく、学生と教職員との共同作業です。これを機会に、学生諸君も、前期課程の2年間に何を学ぶのか? COLの地に学ぶものに相応しい自覚と意識のあり方について再考し、教養を学ぶという生き生きとした営みに一層積極的に取り組まれることを期待します。

(教養教育開発室長/社会学)

今回の採択を受けて、教養学部では、教養教育の内容をCenter of Learningの名に相応しいものに拡充していきます。具体的には、図1にあるように、教育開発に一層積極的に取り組み、従来から実施している授業評価やファカルティ・ディベロップメントに加えて、21世紀COEなどキャンパス内で活発に行われている先端研究の成果を教養教育の中に積極的に還元することによって、「駒場発」の優れた教育コンセプトを開発し、国際的にも通用する独自なリベラル・アーツ教育を実現していくことが目標です。当然、どう見ても世界標準とは言えない、駒場の教室設備を早急かつ抜本的に改善する必要があります。

現在、平成18年度入学者からの実施をめざしてカリキュラム改革の検討作業を進めています

## 教養教育先端イニシアティブ

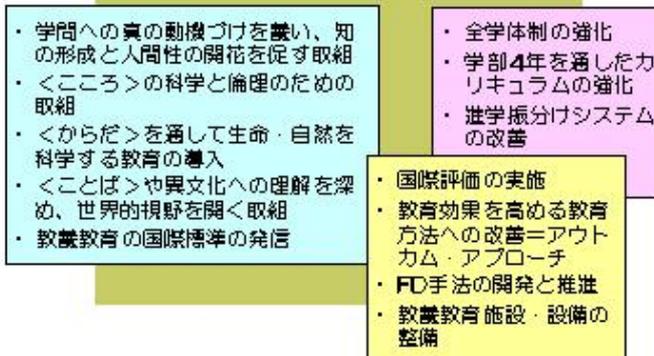


図2: 教養教育開発の主要なメニュー